



園名未定

幼保連携型認定こども園
園名未定

第1回三者協議会資料

ごあいさつ

西大寺北幼稚園の保護者の皆様はじめまして、この度、西大寺北幼稚園の民間移管に伴い、運営候補法人に選定いただきました社会福祉法人郡山双葉会 理事長 生田宏史です。

保護者の皆様におかれましては、平成25年7月に「奈良市幼保再編実施計画」発表から、今日に至るまで園の存続や民間移管と日々不安を抱えながらの子育ては、心配も多かったと存じます。

西大寺北幼稚園は、近鉄大和西大寺駅や菖蒲池駅の間地点にありながら、自然が豊かで静かな雰囲気の中で、子ども達は春・夏・秋・冬の自然に育まれ成長を遂げてきました。

その自然環境は、当法人が大切にしている子育て環境である、子ども達が生き生きと活動できる広い園庭、四季を通じて様々な樹木や植物が織りなす自然環境が整っています。また、長い歴史の中で、地域と築き上げてきた信頼関係は、私たちが理想とするこども園の形を体現しており、これまで培ってきた知識や経験を活かして、西大寺北幼稚園の教育や保育活動を更に充実させると、子ども達の笑い声と地域の人々の笑顔が混ざり合い、現在園に通っている子ども達が、結婚し、子どもを授かり、将来親子で園に戻って来れるように、地域に取って代われない子育て環境として、西大寺北幼稚園の教育を継承し、守って行きたいと考えます。

また、奈良市は、隣接する大阪や京都への利便性が高く、子育て世代が多く流入しており、子育て中の共働き家庭が増えたことで、地域の乳幼児に対する保育ニーズが高まりを見せています。

当法人は、昭和56年に開始した保育園運営の経験をもとに、また近年では、奈良市立鶴舞こども園を民間移管し、公私立連携幼保連携型認定こども園鶴舞やまこども園の運営で得た経験を最大限に活かすと共に、保育者としての経験や知識を生かし、地域の方や保護者の方々と共に大切に守り育ててこられた歴史ある西大寺北幼稚園を運営できる事を嬉しく誇りに思います。

皆様とは、法人責任者として深く関わらせていただき、質の高い教育・保育を提供できるよう丁寧な運営を心掛け、一人ひとりの子どもの主体性を大切にし、「豊かに学び、自ら考え、行動する子どもを育てる」教育目標を引継ぎ、西大寺北幼稚園の発展した新しい形を保護者や地域の方々と共に、作り上げたいと思います。

理事長 生田 宏史



ごあいさつ

西大寺北幼稚園の保護者の皆様はじめまして。この度、西大寺北幼稚園が幼保連携型認定こども園として再スタートすることになり、その一員として参加させていただくことになりました松井登喜子と申します。

今回の認定こども園への移行について、保護者の皆様や地域の皆様にとりましては、いったいどうなるの？幼稚園じゃなくなるの？と不安は、いかばかりかと存じます。0歳児の乳児から6歳までの子どもたちが一緒に生活するのと、保育時間が長くなることによる子どもたちの変化や幼稚園として行ってきた行事はできるの？等々の思いがあるのではないかと思います。

私は、短期大学を卒業して以来、大和郡山市の公立保育園・認定こども園にて保育・教育に従事してまいりました。就学前の子どもたちと一緒に過ごし、楽しかったことはもちろんのこと、思い悩んだり悔しい思いをしたりと様々なことがありました。この保育・教育という仕事は本当に素敵です。日々の中生活の中で子どもたちのかわいい一面や意外な一面に気が付き、子どもたちの笑顔にこの仕事を選んで良かったと思うことがたくさんありました。

「子は宝」と申します。子どもたちは様々な経験を経て学びを身につけながら成長していきます。大切な「宝」を育て、磨き、さらに輝かせるのは保護者の皆様をはじめ、子どもたちを取り巻く大人であり環境です。この度、私もその一員として参加させていただき、この西大寺北地区の子どもたちの成長に少しでもお役に立てるよう、尽力したいと思っております。

これまで公立幼稚園として進めてこられた教育を継承し、新たに認定こども園として様々な年齢の子どもたちや大人と関わることで、得られるものがきっとあると思っています。子どもたちの未来や可能性は無限です。子どもたちの毎日が充実したものになりますよう、また新しい認定こども園がより良いものに発展していけるよう努力してまいります。

これまでの経験の中で、子どもたちと共に自分自身も成長させていただいたと感じており、私自身、新しい子どもたちや子どもを取り巻く様々な方々と出会い、どんなこども園を展開していけるのかワクワクドキドキしております。

是非お力添えいただけきますようお願いいたします。挨拶の言葉といたします。

園長予定者 松井 登喜子



西大寺北幼稚園の運営にあたる基本理念

現在の子ども達の取り巻く環境は、少子化の進行にともない、子どもが互いに育ち合い人格形成の基礎を培う機会が縮小する傾向にあります。幼保連携型認定こども園では、保育園と幼稚園の両方に機能を併せ持つ事により、0歳から就学前の子どもを受入れることにより、切れ目のない集団生活の機会の提供と、乳幼児期から安定した情緒の下で発達に必要な体験を重ね、園児が主体的に活動できる生活を過ごし、家庭や地域を含めた園児の生活全体が豊かなものにならなければなりません。

公私連携の仕組みを取り入れた幼保連携型認定こども園の移行については、保護者の不安の解消に努め、奈良市立こども園カリキュラム「バンビーノプラン」を基に公立幼稚園として長年培ってきた「豊かに学び、自ら考え、行動する子どもを育てる」教育目標を受け継ぎ、こども園・保護者・奈良市が互いに子どもの最善の利益を優先し、信頼関係を深め協力して取り組むことを大切にします。

また、西大寺北幼稚園を初めて訪問させていただいた時、目の前には大きな木々が立ち並び、自然豊かな環境の中で静かに佇む幼稚園と元気に走り回る子ども達を見て、まるで別世界にきたような風景に出会い、心も和み、この地で教育・保育ができることに感銘を受けました。

移管後の園運営については、保護者アンケートの結果をもとに園運営を継承し、何よりもこども一人ひとりをしっかりと受け止め、安心感の中で、伸び伸びと遊び五感を使って、心揺さぶる経験や遊びの中から心の豊かさや命の大切さなどを感じるように、教育・保育環境を整えることを大切にします。

また、これまでに培った経験を活かし、保護者の方々に寄り添い、こどもも大人も「ともに育ち合い、学び合うこども園」を目標に、保護者や地域の方々と共に、より発展した新しい形のこども園を作り上げていきたいと考えます。



郡山双葉会これまでの歩み

Year	Event
1980年	社会福祉法人郡山双葉会設立
1981年	やまと保育園を大和郡山市筒井町に定員90名で開園
2001年	やまと保育園分園を大和郡山市今国府町に定員29名で開園
2004年	やまと保育園分園を拠点化により、ふたば保育園を定員90名で開園
2008年	やまと保育園を改築し定員120名に変更
2010年	はぐみ保育園を大和郡山市冠山町に定員90名で開園
2016年	ふたば保育園を改築し定員140名に変更
2017年	やまと保育園を幼保連携型認定こども園に移行し定員を135名に変更
2019年	ふたば保育園を幼保連携型認定こども園に移行し定員を149名に変更
	やまと保育園分園を大和郡山市高田町に定員45名で開園し、やまと保育園からやまとこども園に名称変更
2020年	奈良市立鶴舞こども園を奈良市から民間移管を受けて、公私連携幼保連携型認定こども園鶴舞やまとこども園を奈良市鶴舞東町に定員175名で開園
	2020年4月 昭和保育園を大和郡山市社会福祉協議会から民間移管を受けて、昭和こども園を大和郡山市馬司町に定員75名で開園
2021年	2021年4月 はぐみ保育園を幼保連携型認定こども園に変更し定員を99名に変更
2024年	2024年3月奈良市立西大寺北幼稚園の移管先候補法人に選定
	2024年4月やまとこども園分園を拠点化により、やまとこども園mimiを定員65名で開園



社会福祉法人郡山双葉会

理事長 生田 宏史

理事 阪本 博 社会福祉法人事務長

理事 廣野 隆信 元県職員

理事 脇田 哲 社会保険労務士

理事 北條 正崇 弁護士

理事 大熊 将弘 会社員

理事 生田 治 やまとこども園園長

監事 藤崎 隆明 社会福祉法人理事長

監事 藤田 徹 税理士

会計監査人 福井 信造 公認会計士

運営施設 やまとこども園、やまとこども園mimi、ふたばこども園、はぐみこども園、昭和こども園、
鶴舞やまとこども園

職員数 156名

民営化後の開園日と開園時間

開園日・開園時間			
年間開園日数		241日 ※ 休園日数 124日	
休園日の設定		日曜日・土曜日（1号認定のみ）・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）	
		1号認定子どもの長期休業期間 7月20日～8月31日・12月24日～1月8日・3月19日～4月7日	
開園時間 保育時間	平日	最大開園時間	7時00分～19時00分
		保育時間（1号）	9時00分～14時00分
		保育時間（2・3号短時間）	8時30分～16時30分
		保育時間（2・3号標準時間）	7時30分～18時30分
	土曜日	最大開園時間	7時30分～18時30分
		保育時間（1号）	
		保育時間（2・3号短時間）	8時30分～16時30分
		保育時間（2・3号標準時間）	7時30分～18時30分



民営化後の特別保育事業

特別保育事業	
1号認定子どもに対する幼稚園型一時預かり事業（預かり保育）	<ul style="list-style-type: none">・実施時間 平日：（朝）7時30分～9時00分 （夕）14時00～18時30分 長期休業期間：7時30分～18時30分・料金設定 500円/日額・職員配置 預かり保育担当の職員を配置
2・3号認定子どもに対する延長保育事業	<ul style="list-style-type: none">・実施時間 短時間：7時00分～8時30分・16時30分～19時00分 標準時間：7時00分～7時30分・18時30分～19時00分・料金設定 500円/日額・職員配置 延長保育担当の職員を配置
一時預かり事業（在園児以外の預り事業）	<ul style="list-style-type: none">・実施時間 9時30分～15時30分・料金設定 4時間まで（1歳児・2歳児：1,500円、3歳児以上：1,200円） 4時間を超える場合（1時間ごとに400円を加算）・職員配置 一時預かり事業担当の職員を配置



保育料以外の費用負担

保育料以外の保護者負担について		
名称	金額	内容
教材費	450円/月額	毎月使用する絵本等の教材代金
給食費（1号認定）	6,500円/月額	おやつを含まない
給食費（2号認定）	7,500円/月額	おやつを含む
昼寝用リースふとん	1,650円/月額	昼寝時のふとんの衛生面や保護者の負担軽減を考え、コットベットを使用予定です。
行事費	実費	遠足等の行事にかかる実費。
保育用品	実費	体操服・上靴・カラー帽子・通園リュック・スモックなど
預かり保育	500円/日額	1号認定子どもに対する幼稚園型一時預かり事業
延長保育	500円/日額	2・3号認定子どもに対する延長保育事業

※保育料以外の保護者負担については、三者協議会において、保護者の意見に十分配慮して最終決定します。

保育料以外の費用負担

新入園時

(西大寺北幼稚園実績)

No	項目	単価	備考
1	お道具箱 (紙製)	560	藤井書房
2	クレパス (16色)	540	藤井書房
3	のり (ふたつき)	140	藤井書房
4	はさみ (切れやすいもの)	380	藤井書房
5	カスタネット	265	藤井書房
6	ハーフパンツ	2,200	真野株式会社
7	スモック	1,550	真野株式会社
8	運動服長袖	2,230	真野株式会社
9	運動服半袖	1,810	真野株式会社
10	紺ベスト	2,660	真野株式会社
11	座布団	1,380	フレーベル (藤川)
12	座布団カバー	510	フレーベル (藤川)
13	カラー帽子	920	Lサイズ 1090円 ひかりのくに
14	名札	130	藤井書房
15	通園カバン	3,000	真野株式会社
16	氏名印	200	藤井書房
17	出席ノート・シール	680	ひかりのくに
計	合計	19,155	

※各家庭で準備できるものについては購入の必要はなし。

5歳進級時

(R5実績)

No	項目	単価	備考
1	カラー帽子	920	Lサイズ 1090円 ひかりのくに
2	名札	130	藤井書房
3	出席ノート・シール	670	啓林堂書店
計		1,720	

その他の実費徴収等

(R5実績)

No	項目	単価	備考
1	写真 (通常)	100	トミカラー
2	写真 (集合・文字あり)	600	トミカラー
3	卒園アルバム	10,000	トミカラー (ページ数によって変動あり)
4	共済掛金	200	スポーツ振興
5	遠足バス代	2,500	春・秋2回 ロイヤルツーリスト
6	おやつ代 (毎月)	350	
7	材料費 (毎月)	450	

※PTA会費 (毎月400円) R5年度は徴収無し。

※令和5年度の遠足バス代はPTAより一部助成いただいています。

※写真・卒園アルバムは保護者から業者に直接振り込みいただきます。

※保育料以外の保護者負担については、三者協議会において、保護者の意見に十分配慮して最終決定します。



給食内容

こども園に通うすべての子ども達に対して給食を提供することで、一体感のある保育を進め、食育についての取組みも切れ目なく行えるようにします。食事のマナーや箸の使い方、給食当番活動を通して、正しい道具の使い方を覚えることやルールを守ったり、自らルールを作ったりすることで、友達との共感関係を深めます。

子ども達の誕生日には、主食をおにぎりで提供し、誕生日の特別感を演出し、クラス全員でお祝いをします。その他、子どもの日やひな祭り、お餅つき、ハロウィン、節分などの行事食の実施や、毎月1回異年齢の子ども達をホールに集めてのランチバイキングは、子ども達に食べたいメニューのアンケートを取り、そのメニューの中から人気メニューをビュッフェ方式で行うランチ会は、子ども達が楽しみにしています。

子ども達にとって給食は元気いっぱい活動した後の十分な栄養補給と、給食を通して食の大切さや楽しさを体験し、子ども同士のコミュニケーションを図る大切な時間と考えて、日々工夫と質の高い給食の提供に努めています。

野菜たっぷり素材そのものの「味」を感じる給食

こだわり① 国産生野菜をたっぷり使用、素材の本来の美味しさを引出す味付け

「かつお節」と「昆布」からの天然出汁の使用し、素材の本来の美味しさを引出す味付けを心掛けています。また、野菜については可能な限り国産の生野菜を使用することで、野菜本来の味や風味を大切に食の安全に努めています。

こだわり② 専属農家と契約した安心と安全に配慮した食材選び

主食は、奈良県産「ひのひかり」の使用。令和5年秋の新米からは、専属農家と契約し、れんげ草の力で極力薬を使用しない、減農米の「れんげ米」の提供を順次始めていきます。子ども達の健康と安全に配慮した給食を提供します。

こだわり③ 栄養価が高く、優しい味の手作りおやつを提供し、心と身体の栄養を満たします。



私たちの食育活動

食育についての取組みは、子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べる楽しみや命を大切に作る心を育てます。

専属の栄養士が栄養のバランスや体調と発達に合わせた離乳食を工夫するなど、こども達の発達の段階に配慮して独自の献立を作成し、旬の野菜や色とりどりの様々な食材を使用することにより食べる楽しさを学べる工夫を凝らし食育計画に基づいた「食」への関心を高めます。

給食については、栄養価のバランスのとれた質の高いメニューの提供や新鮮で安全な食材を使用し、調理担当者や給食室の保健衛生の徹底、アレルギー児への除去食対応等、給食を通しての教育・保育活動の充実に努めています。

こだわり① 農作物の栽培と収穫活動

園庭の畑などで、子どもたちが大根、玉葱、とうもろこし、さつまいもをはじめ、様々な野菜を栽培。毎日の水やりや観察で野菜への愛着がわき、収穫物を持ち帰ることで、家庭で食事について話すきっかけ作りにもなっています。

こだわり② クッキング活動

自分たちで育てた農作物を包丁やフライパンなどの調理器具を使用し、自ら調理することで「もっと食べたい」という意欲が湧いてくることで、苦手な食材を克服する子どもの姿も見られます。

こだわり③ 伝統的な食文化にふれる

地域の高齢者や栄養士の協力を得て、餅つき、節分、雛祭りなど日本独自の伝統行事に触れながら、食文化の継承も大切にしています。最近では、ハロウィンやクリスマスなどを通して、世界の食文化にも触れることで、食育活動も子どもたちの大切な思い出になっています。

こだわり④ 陶器食器の使用

質感、重量感、清潔感、華やかさを兼ねそろえた陶器食器を使用し、本物の味わいを大事にして丁寧な取り扱いの習慣や目からの刺激も楽しみにできるようにしています。



私たちの食育活動

わたしたちの食育活動

子どもたちが食べることに興味を持てるよう、郡山双葉会のすべてのこども園で食育を推進。取り組みを通して、季節感や命の尊さを実感し、協調性も育まれています。



農作物の栽培・収穫活動

農園やまども園では、園庭の畑などで子どもたちが大根やとうもろこし、オクラ、枝豆をはじめ、さまざまな野菜を栽培。毎日の水やりや観察で野菜への愛着がわき、収穫物を持ち帰ることで、家庭で食事について話さきつけつくりも行っていきます。



クッキング体験

自分たちで育てたほうれん草を包丁で切り、フライパンでバター炒めを作ったはくごども園の5歳児たち。苦手だった子から「もつと食べたい」という声があり、保護者からは「子どもがほうれん草の特徴を覚えてくれる」との感想が寄せられました。



伝統的な食文化にふれる

地域の高齢者の協力を得て年末に実施する、やまごども園の恒例行事。餅つきの由来や農具の名前を覚えてもらったあと、蒸しあがった熱々のもち米のにおいや感触を知り、大人による餅つきを応援。思い出に残るよう、子どもも持を持ってついでいます。

「安心・安全なおいしい給食をおなかいっぱい食べてほしくて」

給食に用いる野菜は品質のよいものを厳選し、冷凍野菜は極力使いません。露節や昆布から取った天然だしにもこだわり、自然の旨みを感じられる栄養満点の料理を提供。給食を通して、おいしくて体にやさしいごはんをしっかりと食べることの大切を伝えています。

(郡山双葉会 理事長 生田宏史)

わが子の健康を考えたら、大変でもこの農法はしかなかった。ファーム西川がれんげ米の栽培をはじめたのは約12年前。当時、小さなお子さんを抱えていた奥さまの西川佳子さんは「わが子の口から入るものは、体にやさしい食べ物以外考えられなかった」と振り返ります。

秋の稲刈り後に稲わらをすき込んでれんげの種まきをし、4月中旬から5月上旬に満開。花が散ったらさき込み、田植えと進め、夏に有機100%の肥料を散布します。「減農薬栽培にこだわっているため、虫がつかないように、夏場の草刈りにも力を注ぎなければなりません。れんげ畑を作るの間はかかりますが、こども園での採用はとてもうれしい。今から子どもたちの反応が楽しみです」と、ご主人の利幸さん。奈良県から環境にやさしい農業に取り組み農業者としてエコファーマーの認定も受けているファーム西川。「子どもたちの健やかな成長を願い、私たちが自信を持ってお届けします」と、西川夫妻は心強いメッセージを送ってくれました。保護者のみならず、ぜひ期待ください。



ファーム西川
奈良県橿原市観音寺町 265-2
営業時間 11時頃～夕刻
不定休
<https://www.farm-nishikawa.com>

- 1) リピートする人が増え、「ますます手が抜けない」と真摯に作業に取り組む利幸さん。
- 2) ファーム西川の田んぼは、ほかの農家が散布する農薬などの影響を受けにくい場所にあります。
- 3) れんげ米の品種は奈良の風土に合うヒビカリ。化学肥料不使用、減農薬の特別栽培米です。
- 4) 一面の花畑は写真スポットにも。通りすがりの人との温かい会話も生まれているそう。

愛らしいれんげの花畑が栄養たっぷりの土へと導く

今や「懐かしい」「珍しい」との声も聞かれるれんげ畑。空気中の窒素を取り込んで根に貯める性質があるれんげを肥料にすると、土壌が生まれ変わり稲が元気に育ちます。



もみを完実させるための種肥の用具を普及う体験をした生田理事長。有機肥料は化学肥料よりも散布量が多く、暑い時期は田んぼを繰り返し歩くのはなかなかハードです。

れんげの田んぼから子どもたちへ



西川利幸さんと佳子さんご夫妻。農園内のお店では、奈良のブランドいちご・古郡華とあすカルビーを用いた自家製ジェラートを一年中販売し、人気を集めています。

体にも環境にもやさしいもっちり甘いお米に魅せられて、もっちり栽培に夫婦で取り組む「ファーム西川」。郡山双葉会の生田理事長が「いちごのおいしさに惹かれ、農園内のお店に通うようになったある日、こども園で栽培されたれんげ米」に出会います。れんげ米とはれんげ緑肥を使う昔ながらの農法で栽培されたお米のこと。化学肥料を必要としません。「もっちりしていて甘みがあっておいしい。安心・安全で環境にも配慮したれんげ米を、うちの園に通う子どもたちにも食べてもらいたい」と生田理事長のこの思いに「ファーム西川の西川夫妻はこの秋から郡山双葉会用の田んぼの土づくりがスタートし、来年2023年秋に収穫する新米からこども園の給食に登場する予定です。」



西大寺北幼稚園施設整備計画

施設整備の概要

【整備時期】

令和6年10月～令和8年3月（予定）

※3号認定こどもの受入は、令和8年2月頃からを予定しています。

【整備内容】

既存園舎の改修及び一部増築工事。改修工事中は、一部保育室仮設園舎を設置し、保育区画と工事区画を分けることにより、工事中の園児や保護者の安全確保や騒音の軽減に配慮します。また、安全な戸外遊びのスペースの確保や遊戯室の継続使用や畑や遊具の移設など、現状の幼稚園運営への影響を最小限に抑え、子ども達の日頃の活動に影響が無いように工夫と配慮をします。施設整備の財源については、就学前教育・保育施設整備交付金を活用し、整備後定員を74名とします。

【整備場所】

西大寺北幼稚園敷地内

施設整備にあたっての考え方

本事業の施設整備計画は、敷地面積が狭く、前面道路も狭く一步通行であることから、既存園舎を改修することで、大型工事車両の使用を控え、改修中は一部仮設園舎を設置し、保育区画と工事区画を分けることにより、工事中の園児や保護者の安全確保や騒音の軽減、安全な戸外遊びのスペースの確保など、現状の幼稚園運営への影響を最小限に抑えます。

計画では、園児がこれまで生活してきた大切な園舎の思い出を大切にすることをコンセプトに置き、園舎は内外装の全面改修に止め、現状の園舎の安全性や利便性の向上を図ります。また、園児と共に育った樹木などの自然環境は出来る限り保存し、これまでの様に四季を感じ、自然豊かな環境の中で園児が生き生きと活動できる場を保障します。

工事中や工事後の近隣への取り組みとして、既存園舎の管理棟を解体撤去し、パススルー式の園児送迎用駐車場スペースと駐輪場を確保し、当該園の前面道路のスムーズな通行と安全確保に努めます。



施設整備期間中の給食搬入

令和6年4月～令和7年10月末までの期間の給食については、当法人が運営する「鶴舞やまところも園」か「やまところも園mimi」で調理した給食を運搬し、西大寺北幼稚園の炊事場及び簡易厨房で盛付けや再加熱を行い提供します。

令和7年11月からは、完成した西大寺北幼稚園給食室で自園調理を開始する予定です。



離乳食（保温ケース）



おかず・汁物（保温ケース）



卵焼き・副菜（保温ケース）



保温冷ケースA



保温冷携帯B



給食運搬車（例）

西大寺北幼稚園整備後イメージ



ア・タ・ラ・シ・イ
カ・タ・チ



アタラシイカタチとは
いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも
新しく変化を重ねているものも取り入れること